

塩野義製薬株式会社 御中

ケニア共和国
Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト第2期
(キリフィ県ガンゼ準県)
第3年次 完了報告書

2023年6月30日

(報告対象期間：2022年4月～2023年3月)

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359
URL: <http://www.worldvision.jp>

1. 支援事業概要

事業人：	Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト第3期
事業地：	ケニア共和国 キリフィ県ガンゼ準県 バンバ地域およびジャリブニ地域 英語表記: Bamba Ward and Jaribuni Ward, Ganze Sub-County, Kilifi County, Republic of Kenya
事業期間：	2022年4月～2023年3月（事業3年目）
対象人口：	直接受益者：28,196人（うち15～49歳の女性14,788人、5歳未満児13,408人） 間接受益者：49,310人
年間予算：	60,000,000円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18.0%を含む）
事業目標：	妊産婦・授乳婦および5歳未満児の健康を改善する
活動目的：	コミュニティにおける母子保健サービスの質およびアクセスを向上させるために、保健施設の設備改善および保健人材・システムの基盤整備を中心とした支援活動を実施し、住民の啓発と意識・行動変容および行政との連携強化を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

2. 支援事業の目的と内容

本事業地の活動地域であるキリフィ県はケニアの沿岸地域に位置し、周期的な干ばつが発生する乾燥・半乾燥地帯に分類されます。事業地であるガンゼ準県の人口の約66%以上が1日1.9米ドル以下で暮らす貧困ラインを下回る水準で生活しており、60%以上が自宅から5km以内に保健施設がない場所に暮らしています。また、干ばつの影響もあり、安全で清潔な水へのアクセスは限られており、多くの人々は雨水の溜池からしか水を手に入できず、その結果、下痢などの病気が蔓延し、加えてマラリアの罹患率も高くなっています。

ガンゼ準県の母子保健に関する指標は、キリフィ県の他の地域と比較しても低くなっており、2018年に行われた調査によると、4回以上の産前健診を受診した女性は43%のみであり、施設分娩は全体の52%に留まっています。この主な原因は、医療施設までの距離、施設インフラの不整備及び人員不足、医療従事者の能力不足等が挙げられます。さらに、キリフィ県では5歳未満の子どもの36%が発育不全となっています。また、事業地域の水不足に起因して、世帯レベルのトイレの設置率が低く、衛生状態も良好ではありません。

2020年4月に開始したMother to Mother SHIONOGIプロジェクトは、母子保健サービスへのアクセス向上、コミュニティにおける栄養・水衛生環境の改善、保健システムマネジメントの強化という3つのアプローチを通じた活動を実施するとともに、医療システムと現地コミュニティの連携を強化する活動を行ってきました。第3年次においては、事業実施地において長期にわたる干ばつの影響で活動に支障が出たものの、2年次から継続していた工事も完了し、2023年5月にリマラペラ診療所の産科棟、ソーラーパネル発電設備、スタッフハウス、ミドイナ診療所、リマラペラ診療所、ジャリブニ診療所それぞれの臨床検査室の引き渡しを無事終えることができました。

3. 活動報告

3-1 事業計画

本事業では、妊産婦・授乳婦および5歳未満児の持続的な健康改善を目指し、3つのアプローチを実施します。1つ目に、母子保健サービスへのアクセス向上を目指し、保健施設の整備、医療従事者の能力強化、そしてコミュニティ保健を担う村落保健員とMother to Mother support groupの結成・強化による予防啓発およびサービス受給促進活動を行います。また、保健施設のサービスの質を向上させるため、上位の保健施設および保健省から診療所スタッフへの定期的な連携・指導の体制を整え、さらに上位病院と診療所のリファラル・システム（下位医療施設で対応しきれない患者を2次、3次レベルの上位医療施設へ紹介・搬送する連携システム）も強化します。2つ目は、ケニア国保健省が掲げるBaby-Friendly Community Initiativeの取組みに従い、政府とコミュニティとの連携を強化し、母乳育児や微量栄養素の摂取、バランス食の普及などにより、栄養改善の取組みを強化します。また、保健・栄養改善に必須となる清潔な水へのアクセス改善も行います。3つ目は、コミュニティ・アドボカシーのアプローチを活用し、コミュニティから政府へのボトム・アップの働きかけで、政府・コミュニティ一体となって問題解決ができる仕組みづくりを行います。

アウトカム	アウトプット
1. 妊産婦・授乳婦および5歳未満児の母子保健サービスへのアクセスが向上する	1.1 保健施設において母子保健サービスのための設備が整う
	1.2 医療従事者の母子保健サービスの知識および技能が向上する
	1.3 コミュニティ保健人材が育成される
2. コミュニティの栄養・水衛生行動改善の仕組みが整備される	2.1 コミュニティでの栄養改善の取組みが強化される
	2.2 急性栄養不良に対する栄養プログラムが強化される
	2.3 水供給設備が改善される
	2.4 コミュニティと学校において適切な衛生知識と行動が浸透する
3. 保健システムマネジメントが強化される	3.1 コミュニティと政府関係者間のパートナーシップが促進される
	3.2 モニタリング・評価が強化される

3年間にわたる本事業では年度ごとに以下の活動を計画しています。

	第1年次 2020年4月～2021年3月	第2年次 2021年4月～2022年3月	第3年次 2022年4月～2023年3月
主な活動	保健人材・システムの基盤整備 ・ベースライン調査 ・保健施設の整備（産科棟） ・医療従事者の基礎技術研修 ・コミュニティ保健人材への研修 ・アドボカシー・グループの立上げ、研修	コミュニティ活動の強化・拡充 ・保健施設の整備（産科棟・臨床検査室等） ・水供給施設の整備 ・保健・栄養リフレッシュ研修 ・コミュニティの保健・栄養活動のモニタリング・指導強化	持続的な地域保健システムの確立 ・コミュニティの保健・栄養活動のモニタリング・指導体制の強化 ・活動成果と課題の確認 ・政府関係者との連携強化

3-2 活動の進捗 報告対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日（12カ月）

アウトカムごとの進捗ハイライト

【アウトカム 1】妊産婦・授乳婦および5歳未満児の母子保健サービスへのアクセスが向上する

- 70%の女性が4回以上産前健診を受診しました
- 90.7%の出産が専門技能者の介助で行われました
- 0カ月～23カ月齢の乳幼児を持つ母親の97.7%が出産後24時間以内に産後健診を受けました
- 80.5%の12～23カ月の乳幼児がすべての予防接種を完遂しました
- 45.7%の女性が何らかの避妊法を実践していると答えました

【アウトカム 2】コミュニティの栄養・水衛生行動改善の仕組みが整備される

- 63.9%の乳児が生後6カ月間完全母乳育児を受けました
- 94人の医療従事者がBFCIや母子保健に関する研修を受けました
- 89人の村落保健アシスタントと村落保健員が母子保健に関する研修を受けました

【アウトカム 3】保健システムマネジメントが強化される

- キリフィ県が策定した栄養分野の活動計画(2019-2023)の着手を支援しました
- ガンゼ準県における母子保健の取り組みに促され、県議会において地域保健サービスに関する議案・政策案2つが作成されました
- アドボカシー・グループによって提出された保健サービスに関する提言に基づいた合意書が議会に提出され審議されています

活動項目ごとの進捗

年間計画	実績	進捗状況
支援活動：【1.1】保健施設において母子保健サービスのための設備が整う		
外来棟および臨床検査室の増築 (2年次からの継続含む)	3棟	第2年次時に実施したリマラペラ診療所の産科棟、ソーラーパネル発電設備(パナソニック社ご支援)、スタッフ宿舎、ミドイナ診療所、リマラペラ診療所、ジャリブニ診療所それぞれの臨床検査室の建設工事が完了し、2023年5月に上記すべての引き渡しが行われました(2年次報告済)。またリマラペラ診療所において産後ケアのスペースを新設するため産科室を改築しました(6月にリマラペラ地区および県政府に引き渡し予定)。
機材及び備品の整備	臨床検査機器1台 産科棟医療用具2台、 備品	ジャリブニ診療所に自動血球計数装置1台、リマラペラ診療所に保育器1台、診療用ライト1台、消毒剤を供与しました。

支援活動：【1.2】医療従事者の母子保健サービスの知識および技能が向上する		
医療従事者の母子保健に関する研修の実施	2回、のべ60人	<p>ガンゼを含む近隣7つの準県の看護師および医師を対象に基本的緊急産科ケア¹についての5日間研修を実施し（6月）、30人が参加しました。</p> <p>2か月後に医療系 NGO Jacaranda Health とキリフィ県病院の協力のもと6月に研修を受けた30人を対象に、基礎的緊急産科ケアについてのメンタリングについての5日間研修を実施しました。受講者は研修後、所属する医療施設での緊急産後ケアについて他のスタッフに助言・指導をしていきます。</p>
巡回診療	毎月1回	<p>第1・2年次に引き続き、本事業の活動拠点である3地域のそれぞれの保健施設から離れた遠隔地に合計7カ所の拠点を設け、毎月1回の巡回診療を行いました。のべ10,098人が予防接種（COVID-19 ワクチン含む）、栄養状況のモニタリング、駆虫剤の供与、ビタミンAの提供、傷病の治療、健康教育を受けました。（ジャリブニとリマラペラはそれぞれ2か所、ミドイナは3か所）</p>
サポーターティブ・スーパービジョンの実施	3回	<p>ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニの診療所において、準県の保健情報管理担当者、リプロダクティブ・ヘルス担当者、薬剤師、臨床検査技師によるサポーターティブ・スーパービジョンが7月、9月、11月に行われ、3つの診療所において、医薬品需要予測、在庫管理、保管状況が大きく改善していることが確認されました。</p> <p>ミドイナ診療所においては、故障していたワクチン保管用冷蔵庫を修理するとともに、保管温度の記録管理について助言がなされ、現在では BCG を含む各種の予防接種を毎日行うことができるようになり、巡回診療サービスの質の向上にもつながりました。</p>
データマネジメント 監査・現場指導	データレビュー会合： 3回	<p>ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニの診療所において、リプロダクティブ・母子・新生児・思春期保健及び栄養に関する指標²のレビュー会合を6月、9月、12月に行い、ガンゼ準県内のすべての保健施設関係者および準県の管理責任者も会合に参加し、進捗を共有しました。会合では、各施設での産前健診、予防接種、専門技能者による出産介助の数字など、保健省のルールで各診療所が毎月収集すべきデータについて共有と確認がされました。こうした会合を通じて、各施設のデータ収集状況が県・準県レベルの関係者にも認識される機会となりました。</p>

¹ 基本的緊急産科ケア（EMONC）の研修に含まれた内容：妊婦健診、新生児ケア、妊婦・新生児蘇生法、産科症状マネジメント、意識喪失患者の対応、子癇発作の対応、敗血症の対応、妊娠期のマラリア罹患、分娩中の異常、分娩記録の取り方、外科処置法、産科瘻孔（産道に穴が開く疾患）、中絶後のケア、産後ケア、早産児ケア、新生児黄疸、母乳および代替食品について。

² 母子保健分野の代表的なインパクト指標 RMNCAH-N (Reproductive maternal, newborn, child and adolescent health and nutrition) indicators

<p>保健情報管理システムについての研修</p>	<p>研修 2 回、 30 人</p> <p>研修 1 回、 35 人</p>	<p>対象地区 30 人の医療従事者を対象に、保健省へ提出する報告書ツールに関する研修を 6 月および 1 月（2023 年）に実施しました。準県の保健記録情報担当官が講師となり、主に母子保健に関する各種報告フォーマットや正しいデータ収集および記録保管方法、データ収集の目的などを学びました。</p> <p>また、新しく導入されたがん検診の保健情報管理システムについての 1 日研修をガンゼ準県の医療従事者 35 人を対象に実施しました。</p>																								
<p>支援活動：【1.3】コミュニティ保健人材が育成される</p>																										
<p>村落保健員、保健普及員（村落保健員を指導）、コミュニティ保健委員会への研修</p>	<p>村落保健員への研修： 2 回、</p>	<p>UHC³政策の一環として保健省が導入している報告フォームに沿った世帯マッピング作成および世帯登録についての研修を 5 月に Goshi および Mnagoni コミュニティ・ユニットにおいて実施しました。この二つのコミュニティ・ユニットにはそれぞれ 10 人の村落保健員が所属しており、これまで適切な報告体制がありませんでした。</p> <p>Goshi コミュニティ・ユニットにおいて合計 113 人の授乳期の母親と 26 人の妊婦によって 10 組の Mother to Mother support group (M2M グループ) が組織され、Mnagoni コミュニティ・ユニットでは 50 人の授乳期の母親と 15 人の妊婦によって 6 組の M2M グループが組織されました。</p> <p>バンバ準県病院につながる Mwakala コミュニティ・ユニットの村落保健員 20 人を対象に母子保健に関する 5 日間研修を 8 月に実施しました。研修では、妊婦の世帯訪問、妊娠期の危険な兆候、コミュニケーションやカウンセリングのスキル、妊娠中の家庭でのケア、完全母乳育児などについて学びました。</p>																								
<p>村落保健員の世帯訪問の実施支援</p>	<p>世帯訪問数： 7 コミュニティ・ユニット 4,782 世帯</p>	<p>7 つのコミュニティ・ユニットの村落保健員 150 人が行う世帯訪問の実施支援を行いました。選挙や長期化する干ばつなどの影響で世帯訪問の時期が不定期になってしまったものの、政府の保健普及員の監督下で助言を受けながら、特に 5 歳未満児や妊婦のいる家庭に対して母子保健に関するカウンセリングを行いました。</p> <p>【世帯訪問実績数】</p> <table border="1" data-bbox="632 1619 1366 1953"> <thead> <tr> <th>コミュニティ・ユニット名</th> <th>登録世帯数</th> <th>訪問した世帯数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Bamba</td> <td>1,068</td> <td>1100</td> </tr> <tr> <td>Mstara wa Tsatu</td> <td>1,114</td> <td>1075</td> </tr> <tr> <td>Maryango</td> <td>481</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>Midoina</td> <td>534</td> <td>550</td> </tr> <tr> <td>Bandari</td> <td>739</td> <td>747</td> </tr> <tr> <td>Rimarapera</td> <td>505</td> <td>512</td> </tr> <tr> <td>Marere</td> <td>341</td> <td>350</td> </tr> </tbody> </table>	コミュニティ・ユニット名	登録世帯数	訪問した世帯数	Bamba	1,068	1100	Mstara wa Tsatu	1,114	1075	Maryango	481	500	Midoina	534	550	Bandari	739	747	Rimarapera	505	512	Marere	341	350
コミュニティ・ユニット名	登録世帯数	訪問した世帯数																								
Bamba	1,068	1100																								
Mstara wa Tsatu	1,114	1075																								
Maryango	481	500																								
Midoina	534	550																								
Bandari	739	747																								
Rimarapera	505	512																								
Marere	341	350																								

³ UHC : Universal Health Coverage. 途上国の人々にもあまねく基礎的な保健サービスを提供しようという開発途上国政府の保健政策

<p>貯蓄・貸付グループに関する村落保健員への指導</p>	<p>現在活動中の貯蓄・貸付グループ数： 41 グループ</p>	<p>バンバおよびジャブリニ地区において形成された 41 の M2M グループによる貯蓄グループがメンバーに対して貸付けを行い、グループの持続性を重視した仕組みに沿って運用を開始しています。</p> <p>【現在活動中の貯蓄・貸付グループ数】 ミドイナ：10 グループ リマラペラ：11 グループ ジャリブニ：5 グループ バンバ：15 グループ</p> <p>これに関連し、当事業では 350 頭のメスのヤギを購入し、M2M グループに供与しました。飼育がうまくいけば将来的には各メンバーがメスのヤギを 1 頭ずつ所有し運用することで、女性たちの収入源につなげることができます。</p>
<p>村落保健員の月次会議の開催</p>	<p>村落保健員との月次会議： 毎月 1 回</p>	<p>8 つのコミュニティ・ユニットの村落保健員と月次の会議を行いました。ミーティングは保健普及員がファシリテートし、バンバ準県病院の栄養担当看護師も参加しました。ミーティングでは、村落保健員の世帯訪問サービスが準県病院の母子保健や栄養、感染症予防、件数などに関する指標にどう効果をもたらしているかを話し合いました。</p>
<p>村落保健員の表彰制度の実施</p>	<p>村落保健員 20 人受賞</p>	<p>村落保健員のモチベーションを高めるために、特に顕著な活動を行った村落保健員 20 人を表彰し、10 米ドル相当のクーポンを贈呈しました。受賞者は訪問した世帯に関する報告の提出や、患者の搬送ケースがあった際の対応が適切であったかなどが基準となり選考されました。</p>
<p>Mother to Mother support group (M2M グループ) の月次会議の開催</p>	<p>M2M グループの月次会議： 毎月 1 回 2,290 人参加</p>	<p>リマラペラ、ミドイナ、ジャリブニにて結成された全 M2M グループ（合計メンバー数 2,290 人）の月次会合の開催を支援しました。</p> <p>ミーティングでは主に健康や栄養、家庭菜園の技術、Covid-19 ワクチン接種、養鶏、ヤギ飼育、干ばつに強い植物の栽培など、健康や収入創出のための課題やアイデアが共有されました。</p>
<p>コミュニティリーダーに対する研修</p>	<p>研修の実施： 8 回</p>	<p>ジャリブニ地区およびバンバ地区にてコミュニティ内で影響力を持つリーダーを対象に、それぞれ 4 つのミーティングを 7 月、9 月、12 月および 2 月に実施しました。ガンゼ準県の妊娠件数のうち 17% が 10 代であることから（2021/2022 年統計）、研修ではコミュニティのリーダーとして地域の若年妊娠の問題解決にどう協力できるかが話し合われました。トピックとして、若年妊娠の健康上の影響、10 代層に対する保健サービスの質の問題、避妊法、若者とのコミュニケーションスキル、親としてのあり方、同世代同士の啓発的コミュニケーションが含まれました。これまで地域の 976 人（男性 500 人、女性・少女 476 人）に研修で学んだ情報を伝えました。このリーダーたちによる啓発活動においては以下のような課題も挙がりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ほとんどの親が子どもたちとゆっくり話す時間がないと言う

		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 青年期の子どもと話す際、家の中にプライバシーを保つスペースがない ➤ 家庭が貧しいため、家計を助けるため子どもたちが働かなければならない ➤ 子どもたちが携帯電話を使うようになったことで起こるトラブルのリスク ➤ 多くの地域住民は若者の避妊に関する話題に拒絶反応を示す ➤ 多くの親は子どもたちにコンドームの知識を与えることを快く思わない <p>若年妊娠の問題は重要でありかつ非常にセンシティブな話題であるため、今後も根気強く対話を進めていく必要があります。</p>
村落保健員に対するサポーター・スーパービジョンの実施	年 4 回	ジャリブニの 5 村、リマラペラの 2 村、ミドイナの 4 村で活動する村落保健員へのサポーター・スーパービジョンを実施しました。保健普及員と 3 地区の栄養士のチームで各村を回り、村落保健員のカウンセリングや報告スキルについて指導・助言を行いました。
報告およびデータ収集の向上支援	報告・データ管理フォーム 3 種合計 500 部印刷	保健省が導入している報告ツールおよびデータ管理フォーム 3 種 (summary tool for SAM and MAM management、患者の搬送ケース記録、急性栄養不良児の栄養プログラム記録) を印刷し、ツールの使用が普及していなかったガンゼ準県の医療施設に配布し、データ収集の仕組みの改善に取り組みました。
支援活動：【2.1】コミュニティでの栄養改善の取組みが強化される		
乳幼児に好ましい環境づくり BFCI の推進	3 日間研修 2 か所 合計参加者数：150 人	2 つのコミュニティ・ユニット (Goshi、Mnagoni) で妊婦や授乳期にある女性を対象に Baby friendly community initiative (BFCI) ⁴ についての研修を実施しました。研修は母子栄養に関する政策、母乳育児、適した離乳食、微量栄養素、家族計画、衛生対策をテーマに 3 日間行われました。 また、ミドイナではリーダーの母親たちに BFCI の最新情報やポジティブな子育てについて研修を行いました。
M2M グループの栄養に関する知識の強化	M2M グループへの調理方法のデモンストレーション： 月 1 回	ミドイナ、ジャリブニ及びリマラペラの M2M グループを月に一度巡回し、乳幼児期の食事に関する研修を調理方法のデモンストレーションによる実践を交えながら行いました。長引く干ばつの影響で確保できる食材が限られたものの、参加した母親たちは、月年齢に応じた離乳食の種類、適切な量と回数、地元で手に入る食材でバランスと食べやすさに考慮した調理法や衛生対策を学びました。

⁴ Baby friendly community initiative (BFCI) とはコミュニティの健康と栄養状態を改善することを目的とした健康・栄養改善プログラムです。特に母乳育児を推奨するため、出産後もコミュニティにおいて授乳支援を提供する内容が含まれており、多くの開発途上国の母子保健活動に用いられています。

<p>農業支援（干ばつに強い作物の導入等）</p>	<p>養鶏に関する研修：3カ所</p> <p>太陽光自家発電式孵化器の設置：3カ所</p> <p>ヒナおよび飼料セットの供与：639人</p> <p>孵化器の供与：3台</p> <p>植栽バックの供与：150個</p>	<p>農業省と協力し、ミドイナ、ジャリブニ及びリマラペラにおいて、鶏飼養管理についての研修を実施しました。M2Mグループを中心とした参加者は、餌やり、鶏舎づくり、ワクチン接種、病気予防、繁殖、孵化器のメンテナンスなどを学びました。</p> <p>また、太陽光自家発電式孵化器を購入し、ミドイナ、ジャリブニ及びリマラペラに設置し、620羽が孵化しました。3つのコミュニティ・ユニットで合計639人のM2Mグループのメンバーがヒナと養鶏をスタートさせるための飼料セットを受け取りました。</p> <p>養鶏を始めたM2Mグループメンバーの女性たちの卵生産を支援するため、ミドイナ、ジャリブニ及びリマラペラに孵化器を1台ずつ供与しました。</p> <p>不足しがちな野菜摂取を増やすため、家庭菜園用の垂直式植栽バック150個を購入し、ミドイナおよびジャリブニのM2Mグループメンバーに供与しました。ジャリブニでは地域の農業担当官が世帯を訪問して野菜作りの助言をしています。</p>
<p>栄養キャンペーン実施支援：</p>	<p>世界母乳週間に関するイベント：1回</p> <p>5歳未満児への栄養サプリメントと駆虫剤の配布：1回</p>	<p>7月の「世界母乳週間」の開始に合わせて、6カ月間の完全母乳育児を実施した母親に贈るための布生地を提供しました。</p> <p>Malezi Bola（母子保健、栄養状況の向上を目的とした政府によるキャンペーン）の実施に合わせ、ビタミンA及び駆虫薬を供与し、300人の村落保健員が家庭訪問して配布しました。</p>
<p>支援活動：【2.2】急性栄養不良に対する栄養プログラムが強化される</p>		
<p>栄養プログラムの実施</p>	<p>栄養状態のスクリーニングと治療・フォローアップ</p>	<p>急性栄養不良の子どもをモニタリングするIMAM（Integrated Management of Acute Malnutrition）を実施しました（5歳未満児及び妊婦や授乳期の女性を対象）。本活動は3つの診療所と連携して7カ所で実施している巡回診療（上記1.2）と統合して行われました。このスクリーニングを通して急性栄養不良と診断された子どもは、管轄の診療所で治療を受けた後、村落保健員と診療所の栄養士、保健普及員が連携してフォローアップを受けました。栄養プログラムでは定期的な家庭訪問による栄養カウンセリングや補完食を提供し、栄養状態が改善するまでフォローアップしました。</p> <p>今年次は年間を通して干ばつに見舞われたため、栄養不良の事例が増加傾向にありました。</p>

<p>栄養プログラムの進捗確認会合の実施</p>	<p>会合：4回</p>	<p>ガンゼ準県の医療従事者のIMAMデータレビューを6月、9月、11月および2月に実施し、栄養担当看護師や栄養士30人と準県保健管理官5人が参加しました。四半期毎の入院、退院、プログラムの中断率、回復率のデータを確認する中で、以下のような課題が挙げられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ コミュニティと医療施設で使用している報告ツールが統一されていない ➤ 患者の搬送ケースに使用する報告用紙が不足し常備されていない ➤ 報告体制が構築されていないコミュニティ・ユニットが依然としてある ➤ 村落保健員の中で栄養状態のスクリーニングに関する知識に差がある <p>当事業の支援によって、以下の活動が定期的に行われ定着しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 各診療所によるIMAMデータレビュー会合 ➤ 巡回診療および栄養状況スクリーニング診療所 ➤ 診療所に来診した5歳未満児すべてへの栄養状態スクリーニング ➤ 栄養士による栄養プログラム対象患者のフォローアップ
<p>支援活動：【2.4】コミュニティと学校において適切な衛生知識と行動が浸透する</p>		
<p>衛生施設建設の普及</p>	<p>CLTS ファシリテーターの3日間研修：1回</p> <p>トリガリング研修：10か所</p>	<p>屋外排泄の根絶を目指し、コミュニティが一丸となって衛生行動の変容を推進するアプローチ Community-led total sanitation (CLTS)のファシリテーター役となる行政の公衆衛生担当官や保健普及員に対して6月に3日間の研修を行いました。この研修において、対象地域のうち10村において屋外排泄の習慣が残っていると確認されました。</p> <p>CLTSの3日間研修を受けた保健普及員やコミュニティ保健委員会が中心となり、依然として屋外排泄の習慣が見られる10村の住民をターゲットに啓発するトリガリング研修を実施しました。その後、県及び準県の水衛生担当官が10村の進捗をモニタリングした結果、9村において、屋外排泄の習慣がなくなり、屋外排泄ゼロの認証を政府から受けました。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症対策</p>	<p>新型コロナウイルスワクチン接種の説明会の実施</p>	<p>ガンゼ準県保健局と協働し、新型コロナウイルスワクチン接種についての説明会を6月から7月にかけて9カ所で行いました。ワクチン接種に対する誤解を解いて適切な情報を共有してワクチン接種を推奨するとともに、診療所まで行けない遠隔地の住民がいないか把握することを目的として開催しました。説明会后、対象地域の診療所でワクチンを接種した人は3,705人にのぼりました。</p>

支援活動：【3.1】コミュニティと政府関係者間のパートナーシップが促進される		
<p>アドボカシー・グループの活動支援</p>	<p>四半期ごとのアドボカシー・グループ会合：3回</p> <p>予算策定に関する研修：1回</p>	<p>ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニで活動するアドボカシー・グループの四半期ミーティングが3回開催され、それぞれの地域の診療所における住民への健康と栄養サービスの状況について話し合い、以下のような点が挙げられました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ジャリブニとリマラペラに臨床検査技師（ミドイナも兼任）が必要 ➤ 医薬品需要の予測の仕方について指導を受け、基礎薬品の欠品が減った ➤ リマラペラでは診療所までの距離がかなり遠い住民があり、県に提言を行った <p>アドボカシー・グループのメンバーが県政府の予算編成の仕組みなどを理解できるよう、県の財務部長を講師として招き研修を実施しました。その後アドボカシー・グループは行政予算の基礎知識をベースに地域の保健サービスに関する提言を正式な形で提出し、議会で取り上げてもらい県の総合開発計画に反映するよう請願しました。</p>
<p>政府関係者や事業パートナーとのパートナーシップの促進</p>	<p>保健ステークホルダー会議出席および開催支援：1回</p> <p>ベスト・プラクティス視察の実施：1回</p>	<p>キリフィ県が関係者で四半期ごとに開催している保健ステークホルダー会議にワールド・ビジョンのプロジェクトスタッフが出席しました。政府関係者の間に事業に関する認知度を上げるとともに、現場医療施設の人員不足、救急搬送サービス、設備の修繕など、事業を通して把握された課題を共有し改善を訴えました。</p> <p>【キリフィ県の総合開発計画の優先項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 医療機器の購入 ➤ 救急対応システムの構築 ➤ 新施設の建設 ➤ 既存の施設及び器具のメンテナンス ➤ 医薬品の供給 ➤ サービスの質の向上 ➤ モニタリング・評価 ➤ 保健サービスのアクセスの向上 ➤ 保健分野の人的資源の確保 ➤ リーダーシップとガバナンス ➤ 保健情報システムの構築 <p>母子保健および BFCI で成功した先行事例を学ぶため、ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニの医療従事者およびコミュニティ・ユニットの代表者がカロレニ準県の診療所とコミュニティ・ユニットを視察訪問しました。この視察で以下の事柄を学びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ スタッフ間の連携 ➤ BFCI 活動の積極的实施 ➤ 母子保健・栄養指標に結び付いた BFCI 活動 ➤ 資金援助以後の BFCI の持続性および BFCI が食料の安全保障と栄養改善にもたらすインパクト

	<p>県レベル母子保健・栄養テクニカル・ワーキンググループ会合出席および開催支援：1回</p> <p>準県保健分野年間活動策定会議の開催支援：1回</p>	<p>次に開催される Malezi Bora のプランニングのために召集されたキリフィ島の母子保健・栄養テクニカル・ワーキンググループの会合にプロジェクトスタッフが出席しました。会合では、医療施設を通してのビタミンA補給剤の配布強化や資金援助なしでの配布活動の持続性についても話し合われました。（当事業では、この定期会合の開催を支援しています。）</p> <p>【参加メンバーからのコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 県保健局：長期化する干ばつで栄養不良の件数が増加している。これに対して様々なパートナーが尽力してくれている（世銀の援助プログラム NICHE⁵やWFPなどの国際機関の他、Mother to Mother Project も言及されました）。 ➤ 農業省：10月中旬に雨が見込まれるが、短期間で降雨量は少量で終わる予測のため、農民には豆類やキャッサバなどの耐乾燥性のある短期栽培植物を奨励することが重要である。 ➤ ジェンダー・児童・社会開発省：政府はNICHEを通して特にガンゼ地域の住民に栄養改善のための現金支給を行っている。 ➤ 初等教育局：資金不足のため給食の提供が困難になっている。 <p>準県レベルの保健分野マネージメントチームが行う年間計画策定会議の開催を支援しました。会議では、これまでの活動計画の進捗確認、モニタリング方法、次年度の活動の決定を行いました。</p>
<p>支援活動：【3.2】モニタリング・評価が強化される</p>		
<p>ベースライン調査・中間評価・最終評価の実施：</p>	<p>月間・中間・年間活動報告および会計報告の作成</p>	<p>月間報告に加え、2022年11月に中間報告を作成し、2023年3月に終了時評価を実施しました。</p>

⁵ Nutrition Improvement for Children through Cash and Health Education

4. 事業の評価と保健サービスの利用状況

4-1 支援事業による保健サービスの利用状況

図 1: 各診療所の訪問者数

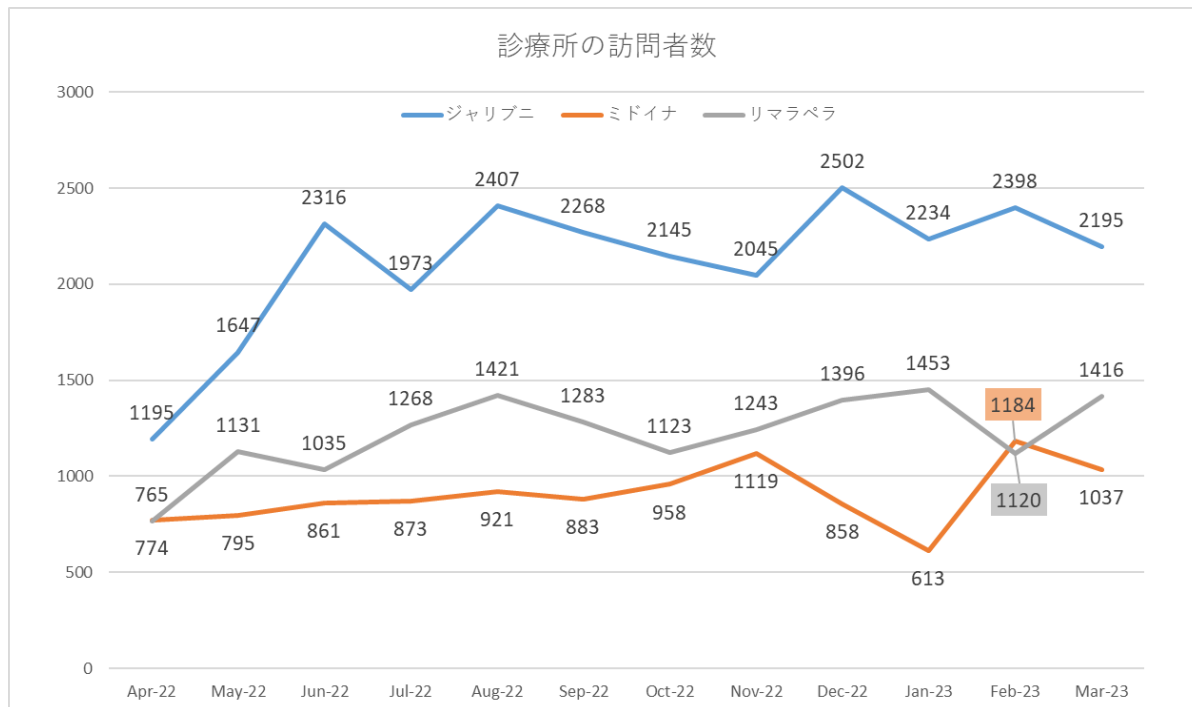


図 2: 事業地の保健施設で保健サービスを受けた患者数 (2022年4月から2023年3月まで)

	ミドイナ 診療所	ジャリブニ 診療所	リマラペラ 診療所
来院者数	10876	25325	14654
妊産婦 (15歳~49歳)			
妊産婦の産前健診 (4回以上) の受診者数	90	148	125
専門技能者の介助による施設での分娩数	97	144	26
微量栄養素 (鉄分、ヨウ素) のサプリメントを受け取った妊婦の数	436	819	405
家族計画の相談・指導を受けた妊産婦数	545	971	246
5歳未満児			
予防接種完遂児数	206	266	154
中等度及び重度急性栄養失調の完治数	49	19	15
ビタミンA欠乏症治療数	2717	4429	1751
発育障害数 (Stunting)	90	38	480
消耗症数 (Wasting)	14	41	66
低体重数 (Underweight)	223	69	515

4-2 事業継続性

当事業は開始時から一貫して持続性を考慮に入れて、医療施設の改善と人材育成、女性の経済的自立支援、地域のオーナーシップの醸成やパートナーとの協働を各分野の活動に盛り込んで実施してきました。事業終了後、事業で達成した成果を持続させ、地域住民の母子保健および栄養をさらに改善していくために、関係するそれぞれの組織・パートナーは以下のような役割を継続して担っていきます。

	組織・パートナー	子どもの生活を守るために今後も継続して担う役割
1	キリフィ州政府	<ul style="list-style-type: none"> 活動を維持させるためのガバナンス
2	保健省	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健および栄養に関する重要なサービスを存続させる 村落保健員のスーパービジョンを含めたコミュニティレベルの保健活動の監督 村落保健員が活用できるデータ収集や報告ツールの提供
3	農林水産省	<ul style="list-style-type: none"> 養鶏や家庭菜園などに対する技術指導
4	子どもサービス局	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利に関する啓発(特に予防接種を含め子どもの健康維持に必要な権利)
5	UNICEF	<ul style="list-style-type: none"> キリフィ県の保健システムへの技術支援
6	ケニア赤十字	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態への対応・支援
7	聖公会開発サービス	<ul style="list-style-type: none"> 食料の安全保障分野での支援
8	ACHAP (African Christian Health Association Platform)	<ul style="list-style-type: none"> HIV/エイズのケアに関する医療施設への技術支援および女子のサポート・エンパワーメント活動 検査実施およびデータの精度管理
9	教育省	<ul style="list-style-type: none"> 微量栄養素サプリメントの配布実施とその啓発
10	M2M グループ	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健の重要性を体現し周囲の手本となる 研修で学んだ母乳や離乳食の進め方の知識を他の母親に共有する
11	行政の関係責任者	<ul style="list-style-type: none"> 地域での集会や会合で母子保健や栄養、水と衛生に関する情報を共有する
12	アドボカシー・グループ	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの住民たちに様々な権利について啓発する
13	インフルエンサー(男性)	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健の重要性を認識し、そのために行動する存在となる
14	医療施設	<ul style="list-style-type: none"> Linda Mama プログラム(経済的に医療費が負担できない女性、特に妊婦が平等に医療を受けられるようサポートするケニア政府のプログラム)を各医療施設で確実に利用できるようフォローアップする。プログラムの一環である「母親キット」を妊婦に提供し、医療施設での出産件数増加を目指す

5. 今後の予定(2023年4月～2023年12月)

事業地では現在3年間続く降水不足に見舞われています。そのため、受益者世帯も食料確保が困難になり5歳未満児の栄養不良が増加しています。また、母親たちは水を求めて長距離を歩かなければならず、M2Mグループの活動にも影響が出ています。このような状況を配慮し、事業終了を9か月間延長し、小規模の活動を継続させていただくことになりました。延長期間の活動は以下の通りです。(具体的な活動は11月までの予定で、12月は最後の引継ぎなどを行う。)

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
【アウトカム 1】妊産婦・授乳婦および5歳未満児の母子保健サービスへのアクセスが向上する								
ミドイナ、リマラペラおよびジャリブニ地域での巡回診療を担う医療従事者のトレーニングおよびメンタリング								
データレビュー会合の実施（四半期毎）								
M2M グループの月次会合実施支援								
保健普及員による村落保健員へのサポートイブ・スーパービジョン（四半期毎）								
【アウトカム 2】コミュニティの栄養・水衛生行動改善の仕組みが整備される								
栄養不良児に対する栄養プログラムのフォローアップ実施・リファラル・システム強化								
【アウトカム 3】保健システムマネジメントが強化される								
県レベル保健ステークホルダー会議実施支援								
県レベル母子保健・栄養・水と衛生に関するテクニカル・ワーキンググループ会合出席								

6. Mother to Mother プロジェクトのインパクト・ストーリー

《事業地関係者の声》

ベンザズ・ニャワ氏（キリフィ島の栄養コーディネーター）

キリフィ島は村落保健員が活動に専念できるよう報酬制度の議案を提出しました。これにより、支援が終了した後も、医療施設は巡回診療を継続することができるようになります。Mother to Mother プロジェクトが実施されるようになり、県政府もプロジェクト関連の活動を支えることができるよう予算配分を含めた年間活動計画を策定しています。額に限りはあるものの、事業対象地域の医療設備のメンテナンスのためにも予算を確保し、職員を配置する計画もあります。

ムガラ・ムヴリア氏（ガンゼ準島の栄養コーディネーター）



私はガンゼ準島の栄養コーディネーターとなり3年になります。準島で行われている栄養サービスの実施を全体的に監督し、活動の調整業務や栄養のアドボカシーを担っています。2020年7月からMother to Mother Projectに携わるようになり、栄養関連の活動のプランニング、実施およびモニタリングを担当しています。まず、栄養コーディネーターとしてプロジェクトを通じたご支援に感謝したいと思います。ジャリブニやバンバ地区では住民たちの間に大きな変化がみられるようになりました。また、栄養不良の子どもたちの栄養改善やBFCIに携わる人材育成、家庭菜園や家畜飼育などの研修で多くの人々の生活にポジティブな影響をもたらし、精神的支えにもなりました。Mother to Mother プロジェクト開始以来、私たちの栄養プログラムも大きく向上し、以下の栄養に関する指標に改善の兆しが表れてきました。

- 鉄葉酸サプリメントの摂取
- 早い段階からの産前ケア、医療施設での出産
- 完全母乳育児と補完食の実践
- 栄養失調児の栄養プログラムのフォローアップ中断率減少
- ツールの提供、サポーター・スーパービジョン、レビューミーティングや研修を通しての記録・報告スキルの向上
- ビタミンA補完剤や寄生虫駆虫薬の摂取

いくつか例を挙げると、栄養プログラムのフォローアップがかつては80~100%の割合で中断している状態でしたが、現在は15~50%に減少しました。また68%であった完全母乳育児の実践率は、現在80%です。これはM2MグループのBFCIに沿った活動の成果です。ガンゼ準島の栄養部を代表し、ご支援に感謝するとともに、今後も継続したパートナーシップを望んでいます。

《受益者の声》

◆ 私たちのコミュニティでは様々な指標であまりよい状況を表していませんでしたが、Mother to Mother プロジェクトの介入によって、バンバ地区に多くのインパクトがもたらされました。医療従事者たちは業務遂行に役立つ研修を受け、M2M グループの母親たちも鶏や野菜の種のサポートを受けました。育てた鶏や野菜などを売り、その収入でヤギを購入する女性たちの姿を見るようにもなりました。そして、診療所に新たな産科棟と臨床検査室もプロジェクトの支援で建設されました。

(バンバ準県病院所属 保健普及員)

◆ かつては生まれて2週間の子どもにも固形の食材を与えていましたが、プロジェクトに参加して以来、その習慣を変えるようになりました。一度の授乳は少なくとも片方5分ずつ続け、6カ月までは母乳だけで育てるようにしています。そして6カ月後から離乳食を作り、朝と夜に与えています。子どもたちも以前に比べ病気にかかることが少なくなってきたようです。

(Marere の M2M グループのメンバーの女性)

◆ 私たちの診療所に新しい産科棟を建設し、設備を整えてくださったワールド・ビジョンに感謝します。私がそこで患者さんの診療にあたる時、今では自信をもって従事しています。設置された機器のおかげで、分娩中の合併症による問題を早く見つけて対処することができるようになりました。以前はベッドが1台しかなかったので、このような対応もあまりできていなかったのです。

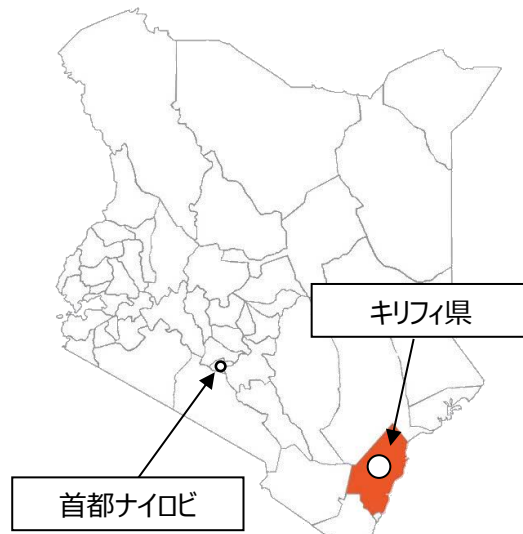
(ジャリブニ診療所の看護師)

◆ 私は3人の子どもを産みました。最初の2人を妊娠していた時は、キリフィ準県病院までの遠路を行かなければなりませんでしたが、ジャリブニ診療所に産科棟ができ、3人目の子どもはそこで出産できたので、遠距離に行く負担がなくなりとても助かりました。

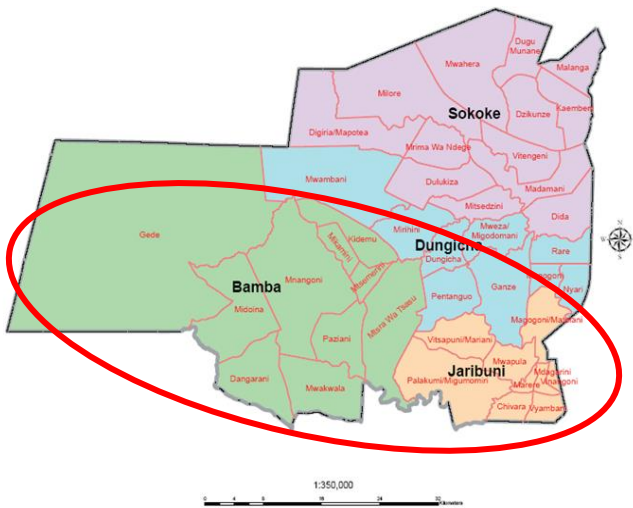
(ジャリブニ地区の母親)

【添付資料】

①支援対象地地図



ガンゼ準県



事業地はバンバ地域およびジャリブニ地域です。

②進捗状況写真



臨床検査室の引き渡し式



臨床検査室の引き渡し 2022年5月



リマラペラ診療所産後ケア棟



BFCI 研修 (Goshi)



医療従事者に対する緊急産科ケアの研修



医療従事者に対する緊急産科ケアの研修

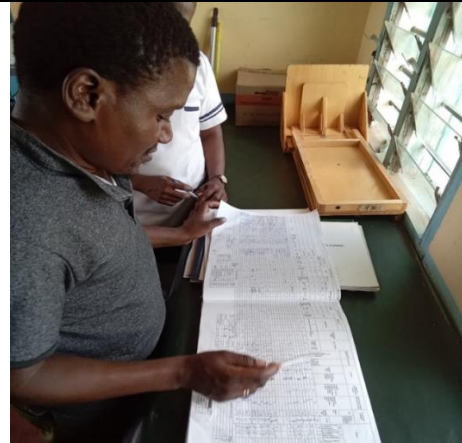


巡回診療



栄養不良の双子の子どもを抱える消耗症の母親に授乳や補完食の指導をしている様子

母親グループが中心となって実施した調理方法のデモンストレーション（リマラペラ）



医薬品在庫管理に関するサポーターズ・スーパービジョン



医薬品在庫管理に関する
サポート・スーパービジョン



データレビュー会合



M2M グループヘヒヨコの配布



M2M グループヘヤギの配布



栄養プログラムのフォローアップ
(リマラペラ)



Community-led total sanitation (CLTS) 研修



CLTS を通じたトイレ建設の進捗確認